



女子大/共学という枠を超え、 「甲南女子大学だから」 という理由で選ばれる存在に。 そのための教育の質向上を

甲南女子大学
学長

秋元典子

本

学の新生入生に改めて志望理由を尋ねたところ、女子大ならではの理由が挙がる一方で、「学びたいことがあったから」という回答も多く挙がりました。女子大/共学という枠を超え、教育内容が魅力的かどうかで選ばれているわけで、その期待に応えられるよう、教育の質向上に取り組んでいるところなんです。具体的には、各学科の専門科目においてPBL（課題解決型学習）や産官学連携のチームでの学びを多く取り入れているほか、学部学科の構成自体を見直しています。20

学長プロフィール あきもと・のりこ ● 1952年生まれ。徳島大学教育学部卒業。千葉大学大学院看護学研究科博士課程修了。和歌山労災病院勤務、大阪府立看護短期大学助手・講師、和歌山県立医科大学看護短期大学教授、岡山大学大学院保健学研究科教授などを経て、2017年より甲南女子大学教授。副学長・看護リハビリテーション学部長を経て、2022年4月より現職。

大学プロフィール 1920年設立の甲南高等女学校を起点に1964年甲南女子大学開学。社会学部（2026年4月開設）、教育学部（2026年4月名称変更）、心理学部、国際学部、文学部、看護リハビリテーション学部、医療栄養学部の7学部10学科編成。

25年度開設の心理学部に続き、2026年4月には教育学部の名称変更および、社会学部（メディア社会学・ビジネス社会・生活環境学専攻）を開設。社会学部では、複雑化する社会課題解決のために必要な横断的な視点や知識を3専攻102科目から興味に合わせて学ぶことが可能です。本学にはまた、自律的な学修を習慣化し、グループワークや団体の活動も可能なコモンルームが全学科に備わっています。コモンの名の通り、居合わせた人同士が時間を共有することで自然に会話が生まれる。こうした流動的なコミュニティがいくつも存在します。学部の改組にあわせ各学科のコモンルームをリニューアルし、ハード面でも教育の質向上に寄与します。

そして、全学で力を入れているのが全学共通科目としての新リーダーシップ教育です。リーダーシップというと、能力の高い人がチームを引っ張るイメージがあるかもしれませんが、本学が育成を目指すのは、先頭指示型ではなく、全員発揮型の新リーダーシップであり、「チームの目標を達成するために他のメンバーに及ぼす影響力」と定義しています。影響力といっても大げさなことではありません。例えば、相手の話にうなずいたり、メモをとったりするだけでも、相手に「このまま話していいんだ」という安心感を与えているわけです。グループワーク後に、そうした感想をフィードバックしあうことで、自己肯定感が低かった学生も含め、自分の強みや、その人らしさを再認識し、チームとして成果を上げるうえで、全員が欠かせない存在であることを実感していくでしょう。

新リーダーシップ教育自体は2017年度に文系学部で始まりましたが、2025年度からは、多職種連携が求められる医療系を含め、全学部の1年生が混在し、学科を超えて履修できる体制を整えました。全学展開にあたり、運営体制の安定化と授業の質を維持するためにリーダーシップ教育センターも開設しています。

同科目の最大の特徴は、学生主体の運営が行われること。前年度に同科目を履修した上級生からなる学習アシスタント（LA）が授業をリードし、教職員はその支援を行うというスタンスです。本年度の授業運営チームは、LAが約70人、3年生の統括LAが約20人、教員16人、センターの教職員が4人という大規模な体制です。教職協働を超え、教員・職員・学生が一体となった「教職学協働」の学びとして、大学に新しい風が吹いています。